

名古屋教区ニュース

第433号

2023年4月

〒461-0004
名古屋東区葵2丁目6-35
カトリック名古屋教区広報部
電話 (052) 935-2223
FAX (052) 935-2254
news@nagoya.catholic.jp
印刷所 株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行

「神からの賜物(A G I F T)を感謝し、新しい時代へ」
教区聖年
2022 2.13
2023 5.28
聖霊降臨の主日
教区設立100周年

教区ホームページ

福音のひびき

4月の説教者

- 2日 受難の主日 椎尾 匡文 (高蔵教会)
- 9日 復活の主日 郷 有祐 (押切・小牧・守山)
- 16日 復活節第2主日 傍島義雄 (新司祭)
- 23日 復活節第3主日 スサント・プリヨ (江南教会)
- 30日 復活節第4主日 ウルアブド・リンガマ・クロメン (新助祭)

栄国寺・殉教者祭 受け継がれる福音と信仰

藩主・光友の苦悩も思う



松浦司教と若松住職が並んで献花



栄国寺の若松住職

名古屋教区殉教者祭が2月4日、名古屋市中区橋の栄国寺で3年ぶりに行われ、およそ70人が集まった。キリシタン顕彰碑前でささげられたミサは、松浦司教と5人の司祭が共同司式をした。

松浦司教はあいさつで、「この地にまかれた福音の種は、先人たちの深い信仰と宣教の熱意によって、激しい迫害の時代を乗り越え、45年後の今日まで受け継がれてきました」と「名古屋教区100周年の祈り」の言葉を引用し、「命をささげた殉教者の信仰は今に受け継がれている」と述べた。

追害、暴力、分断の現代世界の中で、私たちがためらうことなく人々の平和のために歩んでいく力を神に願った。東京カトリック神学院で神学生の養成に携わっている浅井太郎神父がミサの説教を行い、今日までの教区殉教者祭の経緯を話した。

名古屋教区殉教者祭が始まったのは1980年代半ばで、81年に来日した教皇ヨハネ・パウロ2世が日本の司教団に「日本にも殉教者がいるのだから何かしたら」と勧めたことがきっかけとなった。

聖体拝領後、松浦司教が墓石と顕彰碑に灌水・献香を行い、司教、栄国寺住職に続いて司祭団と参加者全員が献花した。栄国寺住職がミサ後にあいさつした。

「この地はかつて千本松原と呼ばれ、キリシタン処刑が行われた場所です。キリシタン処刑を命じた尾張藩主徳川光友が、その慰霊のために建てた清涼庵が今の栄国寺です。キリシタンを取り締まるようにとの幕府の圧力が以前からあり、少しずつ処刑が行われていきましたが、1664年やむを得ず200余人の大処刑が行われました。その中には光友の部下もいたはずで、藩主光友の心中は察するに余りありません」と語った。

列聖へ願いを込めて

福者ユスト高山右近殉教者・記念ミサ

福者ユスト高山右近殉教者の記念ミサが2月11日、金沢教会で行われた。2017年2月の列福式から6年、参列者は右近の次なる列聖を願い、心を一つに祈りを捧げた。

松浦司教は説教で、右近の生涯は、洗礼を受けたあと、領地の没収、放浪、フィリピンへの追放と、忍耐の連続であったと紹介。「それでも信仰は揺らぐことがなく、殺されはしなかったものの苦難の人生そのものが殉教であり、その生き方は私たちに大きなヒントを与えてくれる」と語った。



写真上=高山右近の聖遺物に献香する松浦司教松浦、下=司教と北陸ブロック司祭団との共同司式

平和と福音化を願い、合わせて右近の列聖を求め祈りを唱えた。閉祭で金沢教会オリジナルの高山右近讃歌「光は今も」が同教会聖歌隊によって歌われた。

ミサには金沢教会をはじめ約70人の信徒が集い、名古屋から信徒協関係者も参列した。ミサの



模様がインターネットのユーチューブにライブ配信された。映像は金沢教会または名古屋教区のホームページにアクセスすれば視聴できる。

金沢教会は右近の生涯と信仰の道を広く紹介する冊子「加賀の野に

能登の海に ユスト高山右近 光は今も」や、金沢市内の足跡を訪ねる案内パンフ(英訳付き)を発行して来訪者に配布している。あわせて廃藩置県前の明治初年、金沢に流配された長崎・浦上キリシタンの歴史を紹介する冊子も発行している。

高山右近と浦上キリシタンという加賀藩史の初めと終わりに刻まれた二つの出来事は、郷土史の「加賀百万石異聞」として貴重であると受け止める向きもある。

聖香油ミサのご案内

キリストによる司祭職の制定を記念する聖香油ミサでは、教区で働くすべての司祭が集まって司教と共同司式をし、ミサの中で司教に対する約束の更新を行い、また、司教による聖香油の聖別、洗礼志願者の油と病者の油の祝福が行われ、ともに祈ります。

名古屋教区では毎年、司祭、修道者のダイヤモンド金銀祝をお祝いしますが、今年もこの聖香油ミサと合わせて行われます。

また、終身助祭への養成を受けている候補者の「朗読奉仕者」選任も併せ行うことになりました。朗読奉仕者とは、教会の宣教に協力する任務を受けた者で、神のことばを告げる人です。具体的にはミサにおける第一、第二朗読を行うことのできる公の奉仕者です。小教区で当番などの形でやっている朗読奉仕は、じつは主任司祭の任命による臨時の奉仕者とされています。

日時 4月5日(水) 午前10時30分 会場 布池教会大聖堂
主司式 ミカエル松浦 司教
*公共交通機関でお越しください。

名古屋教区100周年閉幕行事 オペラ公演「忘れられた少年 天正遺欧少年使節」

「今から約400年前、当時、13歳前後だった4人の少年使節についての物語です。彼らは、ローマ教皇に会うために、実に8年半かけて世界中を旅をしました。欧州では大歓迎を受けさまざまな体験をした彼らが、帰国して待っていたものは、秀吉による禁教令でした。このオペラでは、彼らの壮絶な信仰のたたかひが優しく歌われます」(松浦司教)

詳細は、小教区配布のチラシをご覧ください。
日時 5月27日(土) 午後1時30分開場、2時開演
会場 カトリック布池教会大聖堂
上演 NPO法人東京オペラ協会
入場料 無料(要・教会での事前申込み。当日、カンパをお願いします)
入場券 各小教区単位で取りまとめ、あらかじめファクスかメールで申し込み、教区事務所で受け取る(火・木 早川助祭)。郵送希望の場合はその旨申し出る。
定員・締切 定員400人。5月11日または定員になり次第締め切り。
申込先 ファクス 052-935-2254 メール k.hayakawa@nagoya.catholic.jp
主催 カトリック名古屋教区
後援 キリシタン文化伝承プロジェクト



- 2023年 司祭叙階金銀祝 該当者**
- ダイヤモンド祝
 - 滝元すが子(ドミニコ会)
 - 聖ヨゼフ修道院
 - 金祝
 - 小笠原トシ(聖霊会)
 - 林博子(聖霊会)
 - 尾崎恵(聖霊会)
 - 宮人キワ子(聖霊会)
 - 銀祝
 - 井上洋子(聖マリアの無原罪教育修道会)
 - 玉腰久美子(聖マリアの無原罪教育修道会)
 - アンヘレス・ガトン(聖マリアの無原罪教育修道会)
 - 宮城弘美(聖霊会)
 - 三好千春(援助修道会)
 - 伊藤晶(聖霊会)